

---

# 二本の木

筆不精

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

一本の木

### 【Zコード】

Z9979A

### 【作者名】

筆不精

### 【あらすじ】

飼い犬と、小学生兄弟の愛情、信頼感を表現したかったのです。

「健太、買い物に行つてきて、航太もつ  
「なに買うんつ！」

返事をしながら健太が台所に走る、航太も負けていない。他の用事なら母さんの声が大きくなるまで聞こえないふりをするのだが、この用事ばかりはちょっと話が違つた。母さんの機嫌がいつもと同じなら一人百円くらいの買い物が許されるはずなのだ。

「お菓子買うてええんつ」

「一人百円までやでつ、アグルも連れていつて」

アグルの散歩が条件に付いたが、どつちにしてもアグルの散歩は健太と航太の仕事なので変わりはない。

健太は五年生、弟の航太は二年生で家から歩いて五分ほどの学校に通つている。

近所のスーパーでの買い物が今回の任務である。歩く途中で、アグルが何度もオシッコをガードレールの支柱にするので、その度に健太がリードを引っ張るのだが、小さい犬のわりに力が強く、結構いい勝負になる。

アグルはウエルツシユ・コーギーの雄犬。健太、航太の二人とも一緒だから、アグルは一人を兄弟のように思つていた。

散歩のとき、健太や航太が車道に出ないようになにアグルが歩道の内側に引っ張り、航太が川に降りようとすれば、吠えて止めさせた。アグルからすれば何とも世話のやける兄弟だが、それでもアグルは二人が好きだし、一緒にいて楽しかった。

copeでの買い物が終わると、ちょうど学校の時計が一時を指していた。

「あの木のどこ行こか

健太が少し興奮ぎみに言つた。

あの木とは、公園がから見える大きな一本の木のことで、山の中腹あたりに大きく突き出ていて、他の木とは感じが違っていた。

「母さんに怒られる」

アグルを横目で見ながら心配そうに航太が言った。

「木まで行ってすぐに帰ってくるだけや」

いつになく、強い口調で健太が言った。

公園のトイレの裏にアグルを連れて登れそうな小さな谷間の道があつた。先頭が健太、すぐ後ろに航太、最後にアグルが航太に引っ張られるように続く、長い間誰も山に入っていないのか、道がはつきり見えない。

しばらく登ったところで、急にアグルが歩かなくなつた。航太が両手で思いつきり引っ張つても、一人に向かつて吼え続け、来た道を帰ろうとする。

仕方なく、健太が木にアグルを繋いだ。

「待つとけ！」

健太がアグルに怒つたように言つて、歩き出した。航太もあとに付いて歩いた。

山の中は暗くて、どの木が並んだ一本の木なのかよく分からない。どんどん暗くなつてくるし、頭の上から黒い木がかぶさつてくるようで、怖くて叫びだしそうになる。

航太が後ろを振り返つて健太に聞いた。

「兄ちゃん帰る道、分かるん」

「まっすぐ降りたら、いいだけや」

そうは言つたものの、どっちに歩いたらいいのか、よく分からなくなつていた。

「やつぱり・・・帰るか・・・」

さすがに心細くなつて健太が言つた。航太もうなずいた。

来た方に向かつて降りだしたが、しばらくして今度は上り坂になつた。

「兄ちゃん、この道違う」

「分かつとる」

健太は声が震えるのを必死に我慢して、来た道を戻りだした。  
歩いてはいたが、帰る道がどっちなのか、まったく分からなくなつていた。

「あつ！」航太が叫んだ。

「兄ちゃん、アグルの声が聞こえる！」

「アグルっ！」

叫びながら航太が耳に手を当てた。

アグルは、二人の行つた方に向かつて吠え続けていた。アグルは一人の匂いの動きで一人が道に迷つているのが分かつていたのだ。

「こつちや」

健太が航太の手を引いて、アグルの方に走りだした。

小さな山を越えると木に繋がれたアグルが見えた。航太が「アグルっ！」と叫んだ。

アグルも一人を見つけて、後ろ足だけで立ち上がって吠えた。

健太がアグルのリードを持ち、航太の手を引いて公園に向かつて思いつき走つた。航太も泣きながら思いつき走つた。

公園の真ん中に倒れこんで、航太はアグルの頭を撫でながら泣いた。健太は出来るだけ平気な顔をしようとしたが、結局泣き出してしまつた。

アグルは二人に何度も吠えた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9979a/>

---

二本の木

2010年10月12日01時34分発行